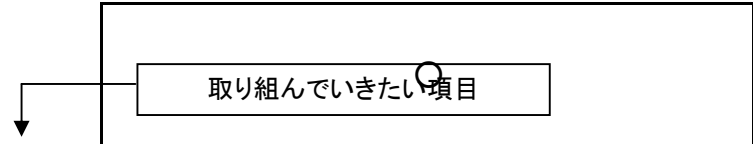


地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域密着型になる前から入所されている方に対して時折出身地等につれて行きます。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	ホームの理念は経営者が考えた理念であって、今後來年から職員の理念を職員自身に考えてもらい作成する予定です。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で、自治会長・老人会長・市議会議員の方々に集ってもらい、「何か地域にできる事はないか？」といつも聞いています。グループホームについて理解していただけよう利用料や利用者さんの生活内容について話しています。また、「認知症にならないように」と地域で講義をさせてもらいました。	○	管理者だけでなく、今後は職員にも参加してもらおう。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を見て、自分達の評価を客観的に見るようにしている。特に改善すべきことについては、職員で話し合い積極的に改善するよう努力している。	○	ホーム独自の自己評価表を作成し、半年また、1年に1回は自己尾評価する機会をつくる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	みなさんの意見をサービスの向上に生かせるようにしてゆきたいが、まだあまり濃い意見の出し合いがない。「消防訓練を地域で行えば」と言う意見ができました。	○	2か月に1回の運営推進会議ができていない。今後は計画を立て実施してゆきたい。「地元で利用したいときに利用できないのは寂しい」と言う意見もあった。9名しか入所できないためしょうがないのか？
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者さんの転倒や利用料未払いの件などで市町村に相談しています。また、ホーム内で処理できないことなど相談しています。市からの見学者の対応もしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今回、当ホームで権利擁護を使用する利用者ができました。権利擁護仕組みをよく理解できました。市の対応も早くスムーズに行きました。ご家族も話し合いで納得していただきました。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない言葉やり取りも虐待の可能性があるにとられる事が多いため、普段から言葉遣いには十分に注意し、またさせています。手のアザや足のアザがある場合の原因を明確にしています。職員のストレスにも注意をはらっています。	○	虐待防止法について再度勉強会をひらいて、深く理解してもらえよう努力してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については十分に気を配っていると思います。特にお金の件、苦情申し立ての件、利用者さんの入院の際の部屋待ち期間について十分に説明します。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの意見を十分聞こうと努力しています。利用者さんの不満は職員へ、また管理者へ話があがるようにしています。ただ、すべては聞いてあげられてはいません。	○ 「こういうものが食べたい」「ここへ行って見たい」など意見はさまざまではあるが、なるべくかなえてあげたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	例えば熱が出たり、いつもと様子が違う場合は、家族に電話したり、メールをしたりと報告します。転倒などあった場合も早急に連絡します。また面会時に介護記録を見ていただきます。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「何か不満を感じたら、市役所や国保連に連絡してください」と話してあります。面会時に家族の様子を見て「何か不満そう」と感じたらこちらのほうから声がけします。	○ 家族はなかなか不満を口に出して言いません。ですから、こちらから表情を見て早急に対応しています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1カ月に1回職員同士で会議しています。そしてその内容を管理者に上げるようにしています。色々意見が出ますが、なるべくすべての意見に対応するよう努力しています。ただ、お金がかからないような事に関しては理事長とよく相談し、その内容を職員に説明し理解を得ます。	○ なるべく職員と会話し、「何かある?」と声かけしています。早急に対応するようにしています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表は職員に作成してもらい、管理者が確認します。1日に必要な職員を確保していればお互いの勤務交代はOKです。	○ 仕事も大切ですが私生活もとても大切です。皆が働きやすい場所を作ることに努力してゆきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員に異動はありません。職員が変わりすぎると利用者さんに良くないと考えるからです。職員が働きやすいよう、職員全体でも努力をしています。	○ 腰のopeをした職員がいて皆でカバー。職員の母が病気で勤務交換も努力でカバー。今後もお互い様の精神で努力してゆく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員によって、早く覚えられる方からそうでない方までさまざまです。その個々が持っている能力を引き出し大切に育てています。まずは人間関係をうまくする事、また現場に入りながら教えてゆきます。1年をめどに育ててゆきます。</p>	<p>○</p> <p>人間関係を良くする事が現場で人を育てます。日々悩み多いですが…皆が笑って仕事をしている姿を見るととても嬉しいです。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交換研修をしています。他のホームを見ることで自分のホームを客観的に見ることができると思います。</p>	<p>○</p> <p>井の中の蛙にならないようにしています。遠くから当ホームを見ることはとても大切です。これからも努力してゆきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>3日以上なるべく日勤が続かないようにしています。なるべくコミュニケーションを多くとるようにしています。管理者のケアに入ります。タバコ吸いがいる為一服タイムを作ります。</p>	<p>○</p> <p>これから、食事会やボーリング大会などして行けたらいいと思います。以前はしていたのに…業務が忙しいためかな…</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>「日々の努力は惜しまないように」と話しています。利用者さんの笑顔が出るようなケアを心掛けています。</p>	<p>○</p> <p>以前より「自分は向上したなあ」と思えるようなケアしています。職員を褒めて向上させてゆきたいです。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>「空きがありますか？」と聞かれ「空きありません」と電話で対応するのではなく、その方の話を聞き、入所できるホームを探します。困っている方に対して「何かできる事はないか？」と常に考えています。</p>	<p>○</p> <p>これからも、ますます努力してゆきたいと思います。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記と同様。傾聴の姿勢で。しっかりをした接遇で。</p>	<p>○</p> <p>上記と同様</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所もいいですが、できる限り自宅で見たいと思うのであれば受け持ちもケアマネに対して「こうした意見を話してみれば？」と助言をさせれらう。	○	すぐに入所ではなく、お金もかかることなのでよく考えて、その方が一番いい方法をこれからも考えてゆきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その方の生活歴、家族歴を十分に把握してからサービスをスタートします。職員が十分その方に対して理解していればスムーズのケアに入れます。	○	数回通ってから入所ということはほとんどなく、いきなり入所が多いかもしれません。今後は大切かも。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんから色々聞いて勉強になることも多いです。ケアしていますが一緒に暮らしているような気がします。利用者さんの笑顔を見ていると救われる事が多いです。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんで長い方で7年入所しています。ご家族には失礼だと思いますが家族同様に感じています。	○	中々面会に来てくれない方もいる為、全員でわけにはいきませんが・・・
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来てくださる方は多いです。なるべく家族と利用者さんだけで話せるようにしています。	○	面会に来ない人、玄関先で帰ってしまう家族がいます。ただ、この方が親を嫌いではないのは分かります。現実を間の当りにしたくないのかもしれませんが。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と電話したり、ドライブへ行ったりしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格も生まれも全員違います。利用者さん一人いないと心配します。支え合ってる感じがします。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者さんが、亡くなった後もお墓参りをしています。また、ご家族からお花を頂いたり、手紙も頂きます。	○	今後も断ち切らないお付き合いをしてゆきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は様々です。全員を同じ対応をするのではなく、個別ケアをしている先にはその人の意向も把握できます。一人ひとりが安心して暮らしていけるようにしてゆきます。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者さんによっては散歩に行きたい人、行きたくない人、座っていたい人、ずっと座っていたい人とさまざまです。その人にあった生活ができるよう対応しています。また、トイレ時間なども様々なため個々に誘導しています。	○	最近介護1・2の方に算数や国語をしています。このようなこともレクに取り入れてゆきたいです。楽しく過ごせるようにしてゆきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員でよく話し合い、またケアマネとも相談しケアプランを作成します。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行われているのみです。	○	見直しも早くに行わないとダメですね。今後注意してゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は出さけていると思います。介護計画の見直しにも役に立っていると思います。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	それほど多機能ではないと思います。大きな施設ではないため小回りが効く。天気がいいからドライブへといきなり決めたり、今日は外食と決めたりと		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアさん、中学生ボランティア、民生委員の方々が来てくれます。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネさんとは、入所の件が圧倒的に多いです。話し合いまではいたっていません。	○	他のサービスを利用することも周りの方々に教えていただきたいです。また、取り組んでゆきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには、日々顔を出しています。今回当ホームの利用者さんが権利擁護でお世話になりました。	○	今後もこちらのほうから地域包括支援センターに声をかけてゆきたいです。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームのかかりつけのDrは優しくまた、Nsも良い方ばかりで安心して医療を受けることができます。月2回		○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームのかかりつけのDrやNsも皆優しく、丁寧に診療してくれます。急変時や終末時もしっかりと対応してくれます。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医の先生が普段診療してくれますが、「専門の先生にみてもらいましょうか」と紹介状を書いてくれ対応するようにしています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	今年は入院患者は一人しか出ませんでした。(膀胱結石でオペ)入院した場合「早めの退院お願いします」とDrに話します。入院し5日から7日で退院します。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームは、終末介護を実施しています。ただ、家族、Dr、Ns、介護職員の話し合いをしっかりと行います。実際今年の4月に一人看取りました。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できることと、できないことは利用者さんによっても違いますが、IVH・酸素等はしない。点滴は訪問看護で行う。病院かホームか？も決めておく。	○	職員のメンタルケアがとても大切なため、常に話し合う体制や経過なども話し合うようにしている。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーなど細かく書き対応しています。実際は話し合いますが、現実には中々それが活かされていることが少ない気がします。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声がけに関しては「さん」付けをしています。声がけなどにも注意しています。個人情報に関しては、記録を見てもいいかたに対しては一筆書いてもらってから記録を見てもらう。	○ 時折、利用者さんに対して言葉かけがきつい様な気がします。気づいたときにすぐに注意する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	あまり長い質問だと答えずらいため、「はい」・「いいえ」で答えられるように対応してゆく。説得より納得のケアを大切にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本を読んでいた人、散歩に行きたい人、テレビを見たい人と様々である。せかせかせずゆったり生活してもらえよう気を配る。	○ 入浴、日光浴まで職員の都合になりがちである。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	「服は何にしますか？」の質問に「何でのいい」が圧倒的に多い。職員が決めることが多いがお洒落に気を配っている。散髪は訪問美容師に来てもらっている。	○ 介護度2の利用者さんは美容院に連れて行こうと考えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前はしていたが、ADLの低下のためできなくなりました。時折皿を拭いてもらったり、タオルをたたんでもらったりしている。あと片付けできる方も一人になってしまった。	○ 皿拭き、コップ拭き等は実施して行こう。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは咀嚼の程度によって変えている。時折飲みたいものを聞きコーヒーやココアを入れる。タバコを吸う利用者さんはいない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを着用することでADLが低下し認知症も進行すると考えるためなるべく時間を見てトイレ誘導をしている。またオムツ代がかからないようにとトイレ誘導にする。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で日中に入浴をしてしまっている。夕方に入る方は2名ほどいる。日中の方が職員が多いため安全である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	18時に就寝する人もいれば、22時に就寝する方もいる。ハルシオン0.125mgを服用している方が1名のみ。あまり睡眠導入剤を使用しない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	清掃で、はたきかけをする方、花に水をあげる方、枯葉を集める方洗濯物を干す方などその方ができるところをしてもらっている。(役割分担)	○	徐々に集中力が低下し役割ができなくなっている。他の役割を見つけないと。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんはお金を持っていない。利用者の方で一人お金の訴えをされ、渡したお金を紛失してしまい大変なことになってしまったため。外出時はお金をもってもらう。	○	お金を持参させたほうが良いと聞くがお金の管理が難しい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく散歩、ドライブ、日光浴をするようにしている。希望に沿っては難しいが、ほとんどの方が希望しない。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	りんご狩り・紅葉見学などご家族でいく。ただ、ADLの低下により外出できる方が少なくなってきた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんが「息子元気かね」などと言った場合は電話をするようにしている。また、年賀状を出すようにしている。	○	もっと電話のやり取り等をしてあげたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	工夫とというか、いつでも来やすい雰囲気づくりをしている。職員の接遇には気を配っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベット柵はしています。(利用者さんのご家族から許可をもらい)	○	職員と身体拘束についてもう一度話す機会を持つ
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関先に鍵をかける場合がある。(職員が昼休み等で人数が少ない時など)。最近はほとんどしていない。	○	玄関の施錠はしなくてもいいと思うが、職員が心配して
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	今年の5月に車椅子の利用者さんが入所され、その方の転倒が相次ぎました。職員と毎回話し合い眼を離さないようにケアをしています。	○	ただ、監視ではないので、近くについて付き添うようにケアしています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	当ホームは段差があります。つまずきそうな場所はずまずかないように、滑りやすいところは滑らないように対応しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒に関しては転倒しないように、利用者さんだけにしない。窒息に関しては食べやすい食事を、誤薬に関しては内服と名前を3回確認する。	○	一人ひとりのマニュアルはない。作成したほうがいいのか？

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていません。急変時は管理者へ報告を常日頃から話しています。	○	定期的に行った方がいいですね。職員と話し合います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「何かあったら協力するよ」と言って貰えるが実際はどこへ身をよせていいかわからない。	○	要改善です。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	なるべく歩かせてあげたいのと車椅子を使用しないでケアするが、それにより転倒する可能性もあるのでご家族にあらかじめ声がけをしておく。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	特にバイタルサインを測定する時間はありません。顔が赤い、手が震える、傾眠がち、食欲がないなどの場合にバイタルサインを測定します。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関してはよく理解できていると思います。内服が開始され副作用が著明に出現した場合はDrに報告し中止します。新しい内服が開始されたら、すぐ職員に連絡します。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	最近、利用者さんは便秘がちです。ADLの低下も一つの要因と考えます。カマに最近頼りがちです。リハビリ体操や水分を多く取るようにもしています。	○	Drと職員とでまた相談しています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回歯磨きをしています。磨けない方は介助し行います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1か月に1回体重測定をしたり、採決で総蛋白を確認するようにしています。水分は1350mlから1800ml摂取しています。よく食べられています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	この時期、手洗い・うがいは欠かせません。特に食前の手洗いは欠かしません。C型肝炎に関しては血液に注意しているなどといったも注意しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1日1回必ず遅番さんが賞味期限をチェックします。コップ、フキンはハイター消毒をします。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの前には門があり、扉が閉まっていると中の様子が分かりません。Am8時になったら開けるようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先はいつも網戸にしています。外の景色も植木や花もあります。ただ、古い民家を改修して部屋を作ったためかどうしても日当たりの悪い部屋もあります。ホーム内は生活感でいっぱいです。	○	日の入らない部屋あり。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂で皆さん過ごされています。仲のいい者同士、姉妹同士で過ごされています。日中、利用者さんは居室にはほとんどいません。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	仏壇や本人が愛用していたタンスや布団があつたり、畳部屋 があつたり、居心地が良い部屋にしております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	ほとんど窓は開いています。いい空気が入ってきます。日中 天気のいい日は窓は全開です。	○	バルンカテ挿入者の方の部屋が臭います。要改善です。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	手すりは付いています。廊下、トイレ、入浴場など。なるべく 自立歩行してもらうため。職員がマンツーマンで対応します。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	ナースコールはありませんが、各部屋の物音や声で対応して います。例えば夜間のトイレ誘導など。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダで日光浴をしています。ホームから門まではコンク リートにしてあるため歩きやすくしてあります。	○	外に池があり危ないかもしれませんが

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちのホームは、古い民家を改装し認知症のケアを行っています。大きな施設に比べハード面では劣りますが、職員はとても優しくいい人ばかりでソフト面はとてもいいと思います。ホームの周りは畑があり、天気の日にはa m / p mと散歩に出ます。近くにはベイシアもあり買い物にも行きます。とにかく明るい職員で笑い声がたえないホームです。一度遊びに来てください。お待ちしております。(終末介護までさせていただきます)